



札幌証券取引所
SAPPORO SECURITIES EXCHANGE

証券コード 7643

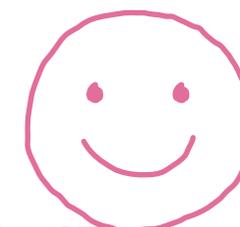


第64期 年次報告書

2017年10月1日～2018年9月30日

株式会社 **ダイイチ**

いい街 いい人 いい笑顔
フレッシュ&ハート ダイイチ





株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第64期（2017年10月1日から2018年9月30日まで）の営業の概況をご報告申し上げます。

代表取締役社長

鈴木達雄

はじめに

当社は、2016年10月1日に、経営資源の集約と業務の効率化を図るため、連結子会社の株式会社オーケーを吸収合併いたしました。その結果、前事業年度より非連結となっております。株主の皆様にご理解いただくため、2016年9月期までは連結の数字を記載しております。

2018年9月期の決算概要について

当社を取り巻くスーパーマーケット業界は、雇用・所得環境の改善により、個人消費は底堅く推移する一方で、各地域における業態を超えた価格競争の激化、人口減と高齢化によるマーケットの縮小に加え、お客様の低価格志向と節約志向の継続、人手不足感の高まりと賃金の上昇による人件費の増加を受け、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境のもとで当社は、「凡事徹底」を行動の基本とし、右記の重点実施事項を中心に、より一層の強い企業体質の実現と業務の効率化を推進し、店舗競争力の強化と企業価値の向上に取り組んでまいりました。

「スクラップ&ビルドの推進と新規出店」

2017年10月に「豊岡店」を新規出店、同月「白樺店」を改装、11月に「東光店」（表紙最上段）を移転増床し開店いたしました。

「コア商品の拡大と接客サービスの向上」

移転増床した「東光店」においては、各部門ごとにコア商品を前面に押し出して陳列（表紙パプリカ）。接客では、AJS（オール日本スーパーマーケット協会）主催チェッカーフェスティバルにて、当社の佐保幸枝さんが最優秀賞の1人に選ばれ、レジ部門の活性化に繋がりました。

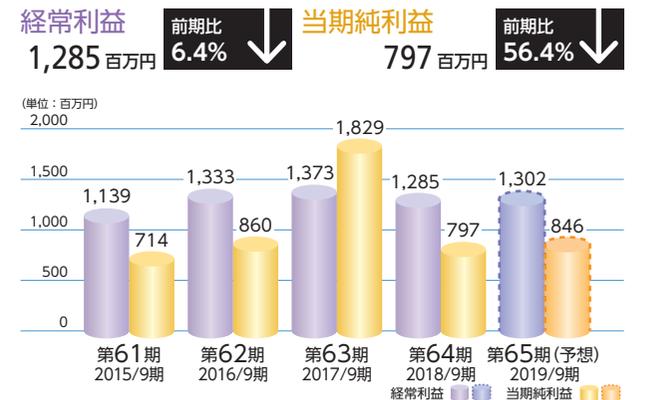
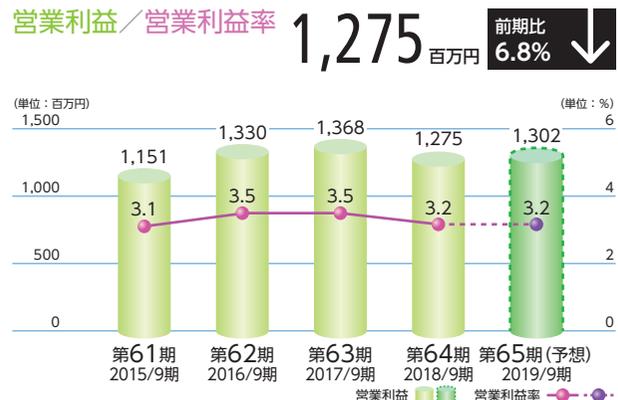
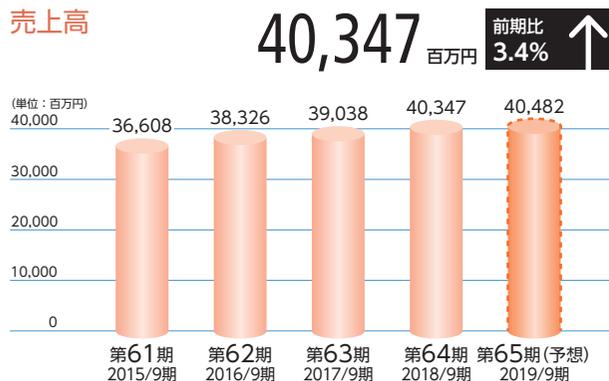
「商品本部の強化と販売促進企画の進化」

生鮮食品の鮮度・品質・品揃えの強化や加工食品の品切れ防止の徹底、電子マネー「フレカプラス」の強化を実施しました。

「人時生産性の向上とコンプライアンスの強化」「人手不足への対応と人材教育の徹底」

福利厚生充実と賃金体系の改定の実施、各種セミナーへの積極的な参加を行ってまいりました。

決算ハイライト



※2017年9月期から完全子会社を吸収合併したことにより非連結となりました。2016年9月期までは、連結の数字を記載しております。

(注) 第63期の当期純利益は、連結子会社である(株)オーケーの吸収合併に伴う特別利益957百万円を計上しております。

■ 減益となった要因

経常利益が前期比△6.4%となった主な要因は、新規出店及び既存店舗の改装と移転増床に伴う一時的費用の発生が大きかったこと、従業員の福利厚生充実と従業員の賃金体系の改定の実施に伴い、人件費が増加したことによるものです。

当期純利益が前期比△56.4%となった主な要因は、前期に発生した連結子会社の株式会社オーケーの吸収合併に伴う特別利益「抱合せ株式消滅差益(957百万円)」の反動減と、特別損失に移転増床等に伴う「固定資産除却損(66百万円)、北海道胆振東部地震に伴う「災害による損失(83百万円)」を計上したことによるものです。

■ 配当方針について

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。財務体質の強化と安定的な経営基盤の確保に努めるとともに、長期的に安定した配当の継続を基本方針としております。この方針に基づき当期の期末配当については、1株当たり普通配当11円とさせていただきます。第65期(2019/9

期)の配当金は、前期より2円増配の1株当たり普通配当13円を予想しております。

配当金の推移

	第61期	第62期	第63期	第64期(当期)	第65期 予想配当
配当額	15円	18円	20円	11円	13円

(注)当社は、2018年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。したがって当期(第64期)期末配当は株式分割実施前の1株当たり配当額に換算すると、1株につき22円に相当しますので、前期(第63期)の年間配当額20円と比べ2円の増配となります。

■ 次期の見通しについて

2019年9月期業績予想

売上高	404億82百万円	(前期比0.3%増)
営業利益	13億02百万円	(前期比2.2%増)
経常利益	13億02百万円	(前期比1.3%増)
当期純利益	8億46百万円	(前期比6.2%増)

スーパーマーケット業界においては、個人消費の一進一退が続く中で、消費の二極化が進むとともに、オーバーストアやネット事業を含め業態を超えた競争の激化に加え、様々なコストの上昇や必要な人材の確保難などにより、依然として厳しい経営環境が続くものと予想されます。

店舗改装につきましては、地域一番の買い物環境の提供を目指して、来春に「白樺店(帯広ブロック)」の増床リニューアルを予定しております。

当社は、引き続き「凡事徹底」を行動の基本とし、現地・現場・現品主義の徹底、商品戦略及び出店戦略の具現化、店舗競争力と商品力の強化を図り、収益構造の改善と企業価値の向上に努めてまいります。

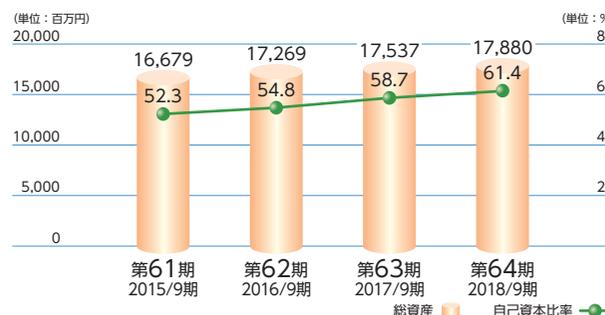
※なお、左記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

決算ハイライト

1株当たり純資産額(左軸) / 1株当たり当期純利益(右軸)



総資産 / 自己資本比率



純資産 / 自己資本当期純利益率 (ROE)



※2017年9月期から完全子会社を吸収合併したことにより非連結となりました。2016年9月期までは、連結の数字を記載しております。

※2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

第61期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

皆様の温かな食卓を願いおかげさまで60周年!!



ダイイチのプロフィール

ダイイチは1958年7月、北海道で初めてのセルフ式スーパーマーケットとして、「帯広フードセンター」を設立しました。資本金は10百万円でした。

1963年、旭川へ進出するため、商号を「第一スーパー」に変更します。

食品スーパーとしてチェーン化し、「フレッシュ&ハート」をキャッチコピーに、1984年に売上高が100億円の大台に乗り、1986年には惣菜センターを開設しました。当時の店舗数は今とほぼ同じで22店舗ありました。

時代は「平成」へと変わります。1991年11月にCIを導入し、商号を現在の「ダイイチ」へ変更し、ロゴマークを採用しました。

分岐点となったのが、1994年にAJS（オール日本スーパーマーケット協会）に加盟したことです。「知恵の共同仕入」を主眼に、関西スーパー様、サミット様等の店舗視察を行うことで、これからの時代は従来の200坪店舗から500坪の大型店舗になることを学びます。大型化することで人時生産性を上げ、ローコストオペレーショ

ンを可能にすることができます。スクラップ&ビルドを積極的に行いました。

一方、企業体質の強化を図るべく増資や第三者割当を何度も行い、2000年4月、日本証券業協会に店頭登録（現在は東証JASDAQに上場）を果たします。当時の資本金は8億40百万円でした。

店頭登録をしてからも、地道にそして着実に業績を伸ばしていきます。500坪型店舗を1年間1店舗のペースで出店、2004年には札幌市に進出し「八軒店」を出店。2008年には本社を所在地へ移転、2009年には地元のスーパーを子会社化（2016年に吸収合併）しました。

そして2013年7月、株式会社イトーヨーカ堂と業務・資本提携を締結します。セブン&アイHDのグループの一員となりました。

これからもダイイチは、皆様の温かな食卓を願い、地域の皆様の「食のライフライン」と「食文化」に貢献できる店作りに取り組んでまいります。

直近10年のダイイチ

2011年12月

鈴木達雄 社長就任
営業一筋の社長の口癖は「現地・現場・現品主義」。現在も日々、現場へ出向き社員の声も聴くアグレッシブな社長です。



2016年8月

電子マネー「フレカプラス」導入



売上高

2018年
40,347百万円

2008年
26,024百万円



経常利益

2018年
1,285百万円

2008年
443百万円



2008

2018

2013年7月

(株)イトーヨーカ堂と業務・資本提携
8月にはイトーヨーカ堂に対し第三者割当増資を実施し、当社の筆頭株主となりました。
その後、セブンプレミアムが導入されnanacoカードが利用可能となっています。



2016年10月

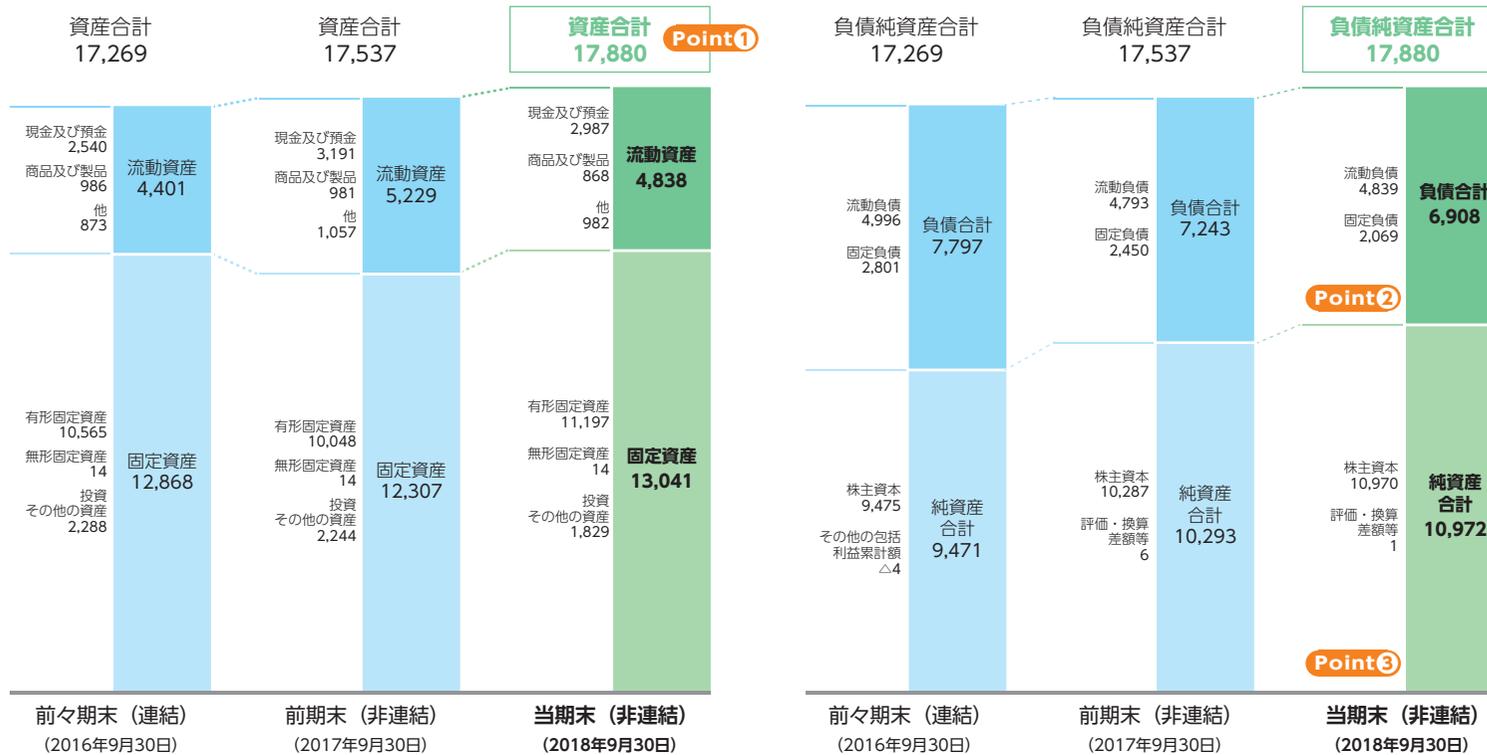
2009年に子会社化した(株)オーケーは、その後順調に業績を伸ばし、2016年10月、経営資源の集約と業務の効率化を図るため吸収合併しました。



財務諸表 (概要)

貸借対照表 (概要)

(単位：百万円)



Point①

当期末は、主に前期に比べ有形固定資産の増加により、資産合計が増えました。

Point②

有利子負債の推移

前々期末	1,610百万円
前期末	1,229百万円
当期末	726百万円

Point③

当期末は、株主資本の利益剰余金の増加により純資産が増えました。

<キャッシュ・フロー計算書>

期末残高が減少した主な要因

営業活動によるキャッシュ・フローが、前期に比べ増加しましたが、投資活動によるキャッシュ・フローの支出と財務活動によるキャッシュ・フローの支出の増加により、現金及び現金同等物の期末残高は減少となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳>

税引前当期純利益	1,136百万円
減価償却費	659百万円
仕入債務の増加額	183百万円
法人税等の支払額	△388百万円

<投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳>

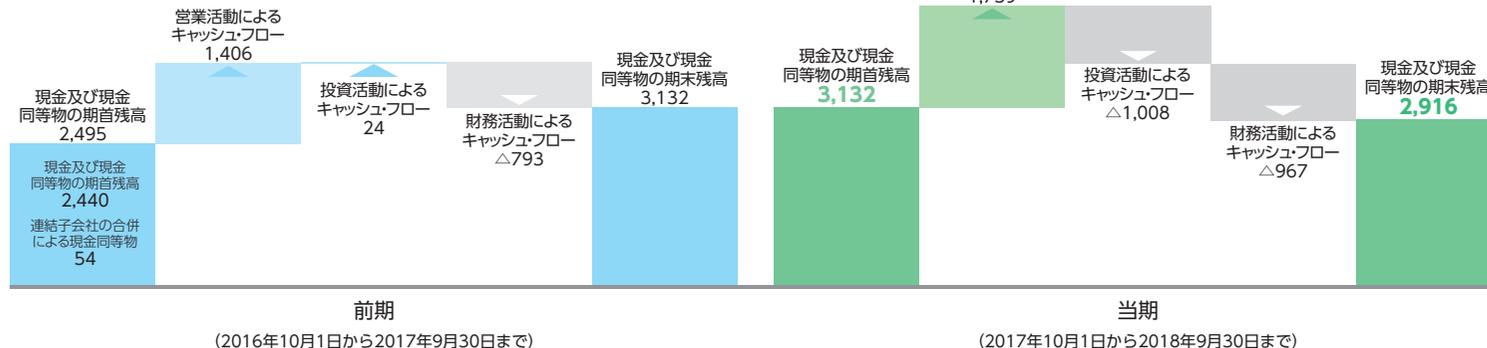
有形固定資産の取得による支出
△1,512百万円

<財務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳>

長期借入金の返済額	△502百万円
リース債務の返済額	△351百万円

キャッシュ・フロー計算書 (概要)

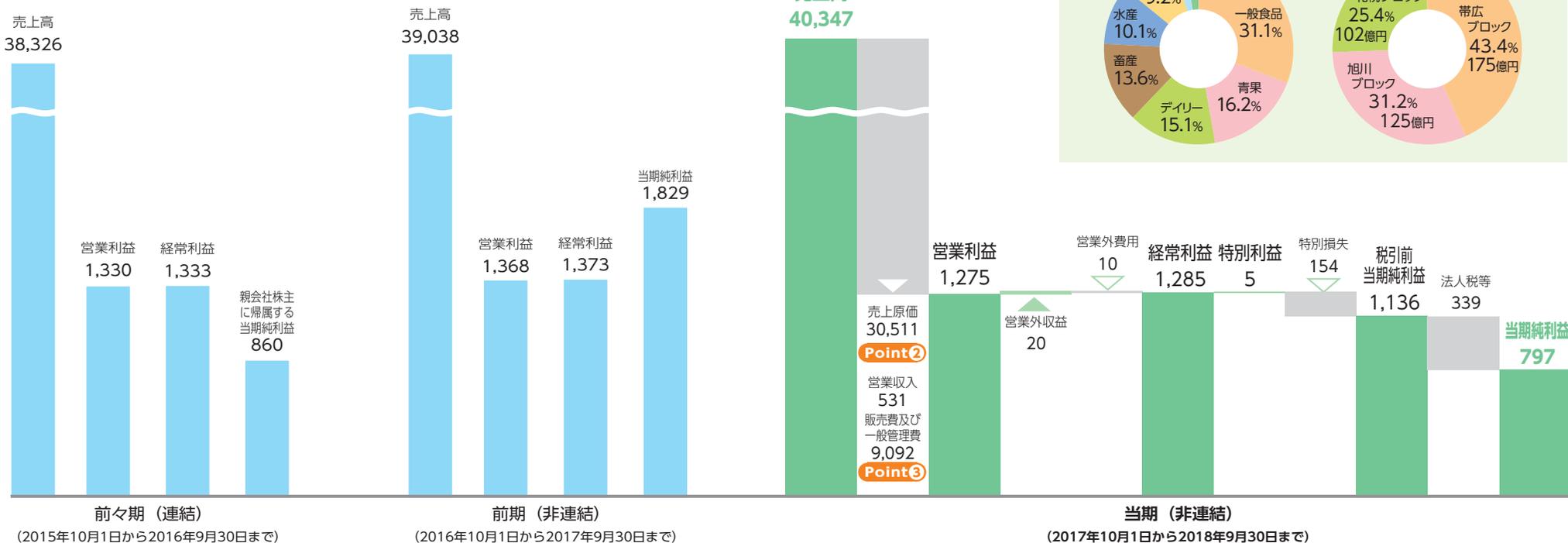
(単位：百万円)



※2017年9月期から完全子会社を吸収合併したことにより非連結となりました。前々期は連結の数字を記載しております。

損益計算書 (概要)

(単位：百万円)



Point②

売上総利益(率)の推移

	前々期	前期	当期
売上総利益(百万円)	9,289	9,481	9,836
売上総利益率(%)	24.2	24.3	24.4

Point③

主な販売費及び一般管理費の推移

(単位：百万円)

	前々期	前期	当期
給与及び賞与	3,216	3,285	3,425
広告宣伝費	939	950	1,010
減価償却費	590	607	648
(うちリース資産分)	(261)	(290)	(327)

各利益率の推移

	前々期	前期	当期
売上高営業利益率(%)	3.5	3.5	3.2
売上高経常利益率(%)	3.5	3.5	3.2
売上高当期純利益率(%)	2.2	4.7	2.0

※2017年9月期から完全子会社を吸収合併したことにより非連結となりました。前々期は連結の数字を記載しております。

帯広ブロックの音更（おとふけ）店は、2013年11月に開店、売場面積2,237㎡の店舗です。従業員は、社員・パートナー社員を含めて70名を超えます。国道沿いの郊外型で、複合商業施設の核店舗として営業しています。

-----2017年5月に音更店の店長になり、現在店長歴7年です。店長の主な仕事を教えてください。

福原 売場の商品・従業員・建物内外を管理して、会社から与えられた予算を達成するために計画と行動を先頭に立って行うことが主な仕事です。店舗で起こることのすべてに、店長は責任があります。アンテナを常に張っていて、問題があれば解決するための判断をする。仲間が困っていれば状況を瞬時に判断してアドバイスをします。

店長の重要な仕事は、問題解決とコミュニケーション力だと思います。世の中の話題やトレンドを理解し、多くの情報を収集してお客様が買いたくなる、満足のいく店舗を作ることが、活気に繋がると思います。

-----売場面積、従業員の数ともに大型です。店舗管理、社員管理など苦労したことを教えてください。

福原 売場管理については、以前勤めていた500坪の店舗と違い、音更店は2,237㎡と大型店です。品揃え・売場展開をするにあたり、スペースを意識しなくてよくなりました。逆に、広大なスペースをどのように活用できるのかと当初は悩みました。部門主任との打ち合わせには、どのような売場を作るのか明確な指示が必要となります。従業員（社員）管理については、以前の店舗は、社員総数が10名程度で若い社員が多かったため、店舗・部門方針を決めていくにも、店長主導型となります。音更店は、社員総数18名程度となり、社員比率が以前と比べ高くなり、年上の部下もいます。音更店では、社員管理のやり方を変えました。店長としての目標を伝えて、主任の意見を尊

重して取り組んでいます。困った時は相談に乗りサポートする側となり、働きやすい環境を作るようにしています。10代から60代までの幅広い世代の従業員がいます。ライフスタイルや考え方が異なります。情報を共有して貰うために同じ言い方をしても、伝わりません。従業員1人1人の特徴を理解して、時に認めて、店舗としての方向性を話して理解してもらいます。

-----失敗したこと、逆に成功したことを教えてください。

福原 季節ごとのイベントの成功が、店舗を成長させていくポイントになります。

1月 受験応援	2月 恵方巻
3月 ひなまつり	4月 新入学
5月 GW	6月 運動会
7月 涼味・行楽	8月 お盆
9月 秋の味覚	10月 ハロウィン
11月 ボジョレー解禁	12月 クリスマス・年末

これらのイベントがあり、店内で部門ごとに分解して売場を作ります。来店したお客様に、もうこんな時季かとわかっていただけるように、最低1か月前から店内の装飾をしています。

店長になりたての頃、季節行事の重要性や計画の立て方もわからずに、大きな季節行事に臨み、売場展開力・商品力・従業員の行動の段取り・店舗演出など、店舗として一体感・方向性を出せずに、大失敗をしました。売上が伸びず大きくマイナスをしました。大失敗を得てからは、他店の売場写真、競合の売場や先輩店長に学び、店舗全員で取り組まなければいけないと確信しました。失敗から学んだこと

になりませんが、



福原豊店長

季節イベントに関して、結果の見える販売コンテストでは、徐々に順位をあげて、最下位だった状況から、最優秀店舗になりました。何より、働くスタッフが店舗・部門方針を理解してくれて頑張ってくれたことが成功に繋がったと思います。

-----おすすめ商品を教えてください。

福原 畜産部門の、丸皿の大容量（1Kg～2kg）豚ロースしゃぶしゃぶ用の商品です。1kg→約4人前 1.5kg→約5人前 2kg→約6人前と量目は多いですが、非常に売れています。食べ切れなかったら、冷凍するのもOKです。翌日以降は豚丼・しょうが焼き・野菜炒めで食べても美味しいです。



豚ロースしゃぶしゃぶ

-----今期（第65期）の目標を教えてください。

福原 競合店対策が最重要課題です。音更店は2018年11月で5年を迎え、まだまだ成長できる店舗です。競合店は、価格も安く店舗も綺麗で、最近では生鮮の鮮度も向上し、勢いのある会社です。真横に出店するので、危機感を持って仕事に励みます。ダイイチらしさを全面に出し、闘っていきます。

帯広ブロック 藤原ブロック次長より

福原店長は、全店長の中でも若手で会社のホープです。どんなことにもスピードを持って取り組む姿勢に感心します。

これからも人を診ること、現場で視える良いことの判断、悪いことの把握を大切にしてください。期待しています。

株式の状況 (2018年9月30日現在)

発行可能株式総数 24,000,000株
 ※2018年4月1日付にて実施した株式分割(1株を2株に分割)に伴い、発行可能株式総数は12,000,000株増加しております。

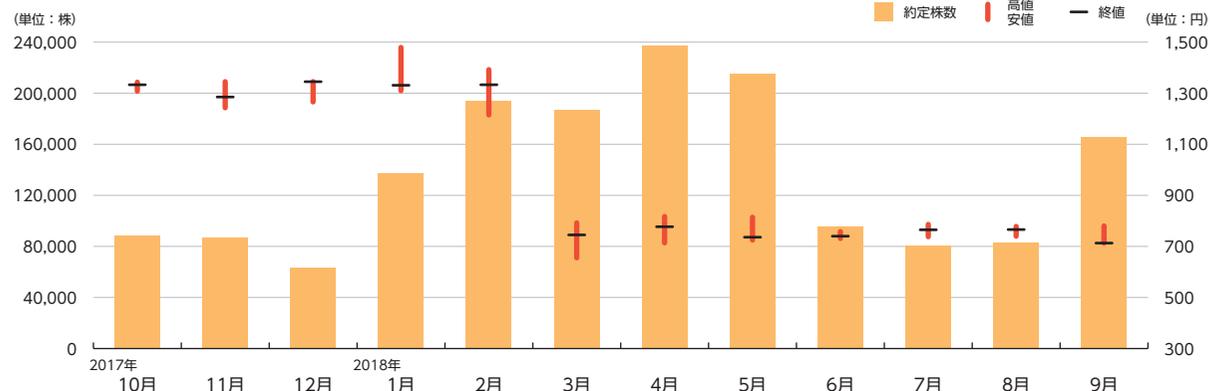
発行済株式の総数 11,438,640株
 ※株式分割(1株を2株に分割)の実施により、発行済株式の総数は5,719,320株増加しております。

株主数 4,759名
 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
株式会社イトーヨーカ堂	3,432,000株	30.03%
ダイイチ取引先持株会	496,000	4.34
若園清	260,400	2.27
小西典子	256,220	2.24
小西保男	216,256	1.89
株式会社北陸銀行	193,040	1.68
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM 02 50502	189,100	1.65
株式会社北洋銀行	186,000	1.62
第一生命保険株式会社	172,800	1.51
国分北海道株式会社	164,000	1.43

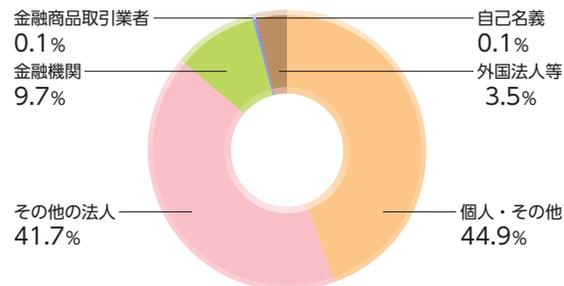
(注) 持株比率は自己株式(12,086株)を控除して計算しております。

株価チャート

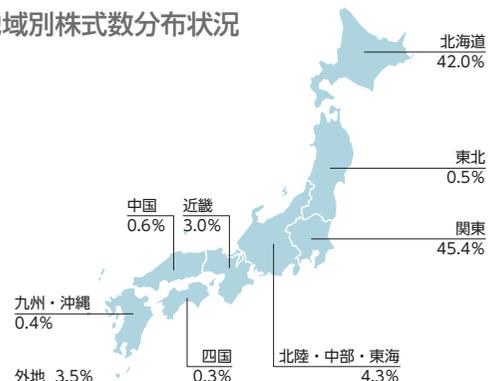


※2018年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

所有者別株式数分布状況



地域別株式数分布状況



株主様向けアンケート

株主の皆様のお声を聞かせください。ご協力よろしくお願ひします。

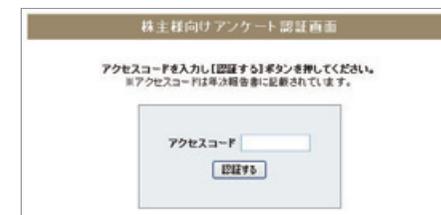
1 株主様アンケートは、当社のホームページが入口となっております。

<http://www.daiichi-d.co.jp/>

2 URLにアクセスしていただきますと、下記のバナーがあります。



3 バナーをクリックすると、下記の画面が表示されます。



4 アクセスコードを入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

アクセスコード **7643tk#n**

アクセスコードは半角英数字でご入力ください。

アンケートにご回答いただいた株主様の中から、抽選で60名様に図書カード1,000円分を進呈させていただきます。

※アンケート実施期間は、本誌がお手元に到着してから約1か月の2019年1月31日までです。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いします。なお、昨年のアンケート結果は、当社のホームページ(IR情報のIRライブラリー)でご覧いただけます。

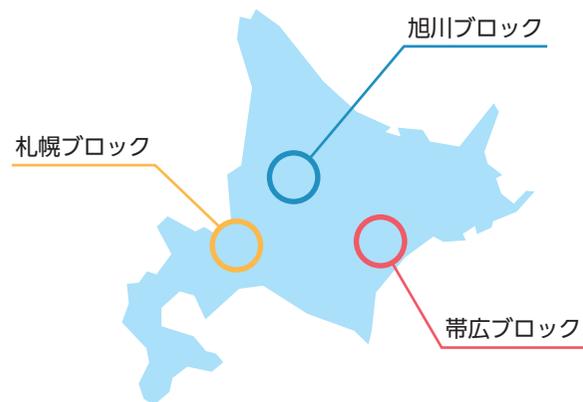
会社概要 (2018年9月30日現在)

商号	株式会社ダイイチ
本社所在地	北海道帯広市西20条南1丁目14番地47
会社設立	1958 (昭和33) 年7月11日
資本金	1,639,253千円
社員数	301名 (正社員) 1,097名 (パートナー社員等、8時間換算)
主要な事業内容	当社は、食料品主体のスーパーマーケットを展開しており、これに附帯する業務として不動産賃貸業務等を行っております。

役員 (2018年12月21日現在)

代表取締役社長	鈴木 達 雄
代表取締役専務	若園 清
常務取締役	川瀬 豊 秋
常務取締役	中本 泰 廣
取締役	野口 一
社外取締役	宮川 明
社外取締役	井雲 康 晴
常勤監査役	堀内 健 三
社外監査役	笹井 祐 三
社外監査役	東城 敬 貴

事業所一覧 (2018年12月21日現在)



帯広ブロック

壱号店	帯広市西1条南10丁目14
東店	帯広市東4条南12丁目1
啓北店	帯広市西12条北4丁目1
めむろ店	河西郡芽室町東6条9丁目1
白樺店	帯広市白樺16条西2丁目2
みなみ野店	帯広市南の森東1丁目1
札内店	中川郡幕別町札内共栄町164
自衛隊前店	帯広市西18条南27丁目1
音更店	河東郡音更町木野大通東12丁目3
オーケー店	河東郡音更町木野大通西17丁目1
[センター]	
惣菜センター	帯広市西20条南1丁目14
帯広配送センター	帯広市西20条南1丁目14

(注) 2017年10月6日に、豊岡店を出店いたしました。

本社 (営業本部 管理本部)

北海道帯広市西20条南1丁目14-47

旭川本部

北海道旭川市春光1条8丁目1-77

札幌本部

北海道札幌市西区八軒10条東5丁目2

旭川ブロック

西店	旭川市2条通4丁目134
東光店	旭川市東光12条6丁目203
末広店	旭川市末広1条7丁目265
東旭川店	旭川市東旭川北1条1丁目3
旭町店	旭川市旭町1条7丁目2631
二条通店	旭川市2条通23丁目110
花咲店	旭川市春光1条8丁目1-77
豊岡店	旭川市豊岡3条4丁目4-5
[センター]	
旭川配送センター	旭川市流通団地2条3丁目15

札幌ブロック

八軒店	札幌市西区八軒10条東5丁目2
白石神社前店	札幌市白石区本通13丁目北3番39
発寒中央駅前店	札幌市西区発寒10条3丁目1-11
清田店	札幌市清田区清田2条3丁目
恵み野店	恵庭市恵み野里美2丁目15

株主優待のお知らせ

2018年9月期の株主優待は下記のとおりです。

■ 1,000株未満保有の株主の皆様へは年次報告書（本誌）に同封しております。

所有株式数	VJAギフトカード	所有株式数	VJAギフトカード
100～499株	 1,000円分	500～999株	 2,000円分

■ 1,000株以上保有の株主の皆様は選択制となりますので、2019年1月末日までに同封されたお申込み書のはがきをご返送ください。

お申込み書のはがきに必要事項をご記入いただき、プライバシー保護シールを貼ってポストへご投函ください。

株主様向けアンケート（当社のホームページ）からもお申込みができます。なお、はがきとインターネットの両方が届いた場合は、インターネットを優先とさせていただきます。

所有株式数 1,000株以上	A VJAギフトカード  4,000円分	or	B 当社商品券  4,000円分	or	C グリーンアスパラ 2L 1.5kg 	or	D だんすけ西瓜 1玉 	or	E メロン (夫婦キングルビー) 2玉 	or	F 北海道旬の味覚 (農産物セット) 約14kg 
	いずれかひとつお選びいただけます。										
商品の発送	2月初旬		2月初旬		収穫時季の 5月下旬～6月初旬		収穫時季の 7月下旬		収穫時季の 7月下旬		収穫時季の10月中

希望申込受付期間
お申込みがない場合

2019年1月末日到着分まで

- ①店舗のある地域（十勝総合振興局管内、上川総合振興局管内、石狩振興局管内）の株主様に対し、当社商品券を贈呈します。
- ②店舗のない地域の株主様に対し、北海道特産品メロン2玉を贈呈します。

個人情報について

注 意 事 項

いただいた個人情報は、この優待商品のお届けのみに利用させていただきます。

- ・株主名が法人の場合、会社名をお書きください。（社長様名だけではわかりかねます。）
- ・ご希望の時間にはお届けできない場合がありますので、ご了承ください。

株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
期末配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年12月
単元株式数	100株
株主名簿管理人・ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

【株式に関するお手続きについて】

株式に関するお手続き（住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求等）につきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。

特別口座（※）に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行で承りますので、上記連絡先にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード) 証券会員制法人札幌証券取引所
証券コード	7643
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.daiichi-d.co.jp/IR/ir/account.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

※ 特別口座とは、株券電子化施行までに証券保管振替機構に株券を預託されなかった株主等の権利を保全するために開設した、口座のことです。法令に従い、名義人名で三菱UFJ信託銀行に開設した特別口座に記載されています。配当金は受け取れますが、株式の売買はできません。証券口座への振替が必要となりますので、上記連絡先にお問い合わせください。

【少額投資非課税口座（NISA口座）における配当等のお受け取りについて】

新規に購入された当社株式をNISA口座でご所有される場合、配当等につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関（証券会社等）を通じて配当等を受け取る方式である「株式数比例配分方式」をお選びいただく必要があります。

ご所有の株式のうち、特別口座に記録された株式をお持ちの株主様は「株式数比例配分方式」をお選びいただくことができませんのでご注意ください。

NISA口座に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

期末配当金のお支払いについて

第64期の期末配当金は、2018年12月21日の定時株主総会にて承認されましたので、1株につき11円を次の方法によりお支払いいたします。

1. 銀行口座への振込をご指定の株主様

同封の「第64期期末配当金計算書」のとおり「[配当金振込先ご確認]のご案内」に記載の口座へお振込いたしましたので、ご確認ください。

2. 振込をご指定されていない株主様

第64期期末配当金の「期末配当金計算書」とともに「期末配当金領収証」を同封しております。銀行払い渡し期間（2018年12月25日～2019年1月24日）に、**最寄りのゆうちょ銀行の本支店及び出張所並びに郵便局でお受け取りください。**

3. 証券口座でお受け取り（株式数比例配分方式）の株主様

お取引のある証券会社へご確認ください。

4. 同封の「期末配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成する「支払通知書」を兼ねておりますので、確定申告の資料としてご利用いただけます。



TEL 0155-38-3456 (代表)

FAX 0155-38-3434

<http://www.daiichi-d.co.jp/>

本誌に関するお問い合わせは、企画IR部までお願いいたします。

